



中国四国

第25号
平成26年8月発行

<http://www.mod.go.jp/rdb/chushi/>

普天間飛行場からKC - 130空中給油機部隊の1番機飛来



CONTENTS

- ① KC - 130空中給油機の岩国飛行場への移駐計画
- ② 岩国飛行場へのKC - 130移駐の1番機飛来(報道公開)
- ③ 愛宕山用地における敷地造成工事に伴う説明会
- ④ 愛宕山用地における運動施設エリアのイメージ図の披露
- ⑤ 岩国錦帯橋空港50万人達成セレモニー
- ⑥ 2014年日米親善デー開催
- ⑦ 平成26年中国四国防衛局防災応急対処訓練実施
- ⑧ 第23回防衛セミナーを開催
- ⑨ 奈義町町制施行60周年式典
- ⑩ 局長感謝状贈呈



KC-130空中給油機の岩国飛行場への移駐計画

～移駐時期の説明～

平成26年5月27日、岸外務副大臣と木原防衛大臣政務官が、山口県知事及び岩国市長等と面談し、KC-130飛行隊の岩国飛行場への移駐時期については、移駐開始に必要な駐機場、格納庫等の施設整備が5月30日に完了することになり、当該施設の提供手続きを行った後、移駐は、7月上旬から8月下旬までの間に行われる見込みとなった旨の説明が行われました。

山口県庁での説明



村岡山口県知事(右) 柳居議長(中央) 畑原副議長(左)



岸外務副大臣(左) と木原防衛大臣政務官(右)



米本和木町長



椎木周防大島町長

山口県知事等から次のような発言がありました。
 政府には、普天間飛行場の一日も早い危険性の除去のため、引き続き、全力で取り組んでいただきたい。
 米軍機の安全運用の確保、米海兵隊員の綱紀の保持については、万全を期していただきたい。
 安心・安全対策、地域振興策については、最大限の配慮をされるようお願いする。

岩国市役所での説明

岩国市長から次のような発言がありました。
 政府には、普天間飛行場の一日も早い危険性の除去のため、引き続き、全力で取り組んでいただきたい。
 安心・安全対策、地域振興策についても最大限の配慮をお願いする。



岸外務副大臣(前列左) と木原防衛大臣政務官(前列中央)



白木副市長(左)と福田岩国市長(中央) 桑原議長(右)

KC - 130空中給油機の岩国飛行場への移駐計画

～ 岩国飛行場へのKC - 130移駐に向けた工事～

平成26年5月27日、岸外務副大臣と木原防衛大臣政務官が、山口県知事及び岩国市長等と面談し、KC-130飛行隊の岩国飛行場への移駐時期については、移駐開始に必要な駐機場、格納庫等の施設整備が5月30日に完了することになり、当該施設の提供手続きを行った後、移駐は、7月上旬から8月下旬までの間に行われる見込みとなった旨の説明が行われました。

なお、KC-130の移駐に向け、予定どおり格納庫、駐機場等の建設工事が完成しました。



駐機場



格納庫

岩国飛行場へのKC - 130移駐の1番機飛来(報道公開)

平成26年7月15日、米軍岩国基地報道部は、米軍再編計画により普天間飛行場からKC-130飛行隊(海兵第152空中給油輸送中隊)の岩国飛行場への移駐に係る1番機の飛来状況を報道陣に公開しました。



移駐1番機の着陸の瞬間



内部用燃料タンク



部隊の通称『スモウ(相撲)ズ』



格納庫の前に駐機した1番機

愛宕山用地における敷地造成工事に伴う説明会

中国四国防衛局は、愛宕山用地における「住宅地区」及び「運動施設地区」の敷地造成工事について契約が整い、整備することとなったことから、周辺住民の方々を対象に敷地造成工事に係る説明会を実施しました。

説明会は、4月23日、25日、27日の3回、各供用会館において行われました。

～4月23日 牛野谷供用会館～



～4月25日 平田東供用会館～



～4月27日 愛宕供用会館～



愛宕山用地における運動施設エリアのイメージ図の披露

平成26年5月22日、中国四国防衛局は、米軍岩国基地と共同で作成した愛宕山用地における「運動施設エリア」のイメージ図を岩国市、市議会、商工会議所や体育協会などの関係者に披露しました。

同運動施設エリアには、岩国市の皆様方からの御要望を踏まえ、高校野球の公式試合の開催が可能な約8,000人収容の野球場、400メートルトラック8レーンとサッカー場を併せた陸上競技場、屋内アリーナを備えたコミュニティーセンター等を計画しています。

なお、当日、披露したイメージ図については市役所1階ロビーにてご覧頂けます。



愛宕山運動施設エリアのイメージ図

運動施設エリア全景



野球場



陸上競技場



2014年日米親善デー開催

☆Friendship DAY☆

平成26年5月5日、米海兵隊岩国航空基地を一般開放する「日米親善デー」が2年ぶりに開催されました。今年は航空ショーは行われなかったものの、来場者は約5万人(基地発表)、「日米親善デー」では初お目見えのMV-22オスプレイやこの夏、普天間から岩国に移駐するKC-130空中給油機などが地上展示され多くの来場者に囲まれていました。今回は、基地内に駐車場が設けられないことが徹底されていたため、基地周辺での渋滞等は見受けられませんでした。



一般公開されたMV-22オスプレイ



当基地に移駐するKC-130空中給油機



ピザの店では長蛇の列



キッズ・ランドでも長蛇の列

番外編：岩国市と岩国防衛事務所は、イベントが終了する午後4時から約1時間、岩国基地正門周辺において、ゴミ拾い等の清掃活動を行いました。基地側の配慮で基地周辺にも大型のゴミ箱を設置していたため、目に余るゴミの散乱は見受けられませんでした。



岩国錦帯橋空港50万人達成セレモニー

平成26年5月20日、岩国錦帯橋空港の搭乗者数が50万人を突破し、空港ロビーで記念式典が開かれ、岩国市などがつくる空港利用促進協議会の会長である福田岩国市長らがくす玉を割って祝福しました。平成24年12月13日の開港から524日目での達成となります。

なお、同空港では3月末から一部の便に中型機を導入しており、更なる利用拡大を進めています。



くす玉を割って祝福する関係者(岩国市提供)



50万人目利用者と記念撮影(岩国市提供)

平成26年度 在日米軍従業員の安全衛生講習会開催

平成26年7月8日、中国四国防衛局(岩国防衛事務所)では、岩国基地で働く在日米軍従業員の健康の保持増進を目的としてメンタルヘルス(セルフケア)講習会を開催しました。

場 所：米海兵隊岩国航空基地内

対 象 者：新規採用者

目 的：ストレスマネジメントの手法を習得することにより、メンタル的な傷病の減少及び
予防するとともに、職場の士気と生産性の向上を目的とする。

なお、今後も次のとおり開催を予定しています。

第2回目 平成26年10月

第3回目 平成27年 2月



講習の様子

平成26年度中国四国防衛局防災応急対処訓練実施

平成26年6月2日、中国四国防衛局は、当局管内における大規模地震発生を想定した中国四国防衛局防災応急対処訓練を実施し、「緊急事態等における中国四国防衛局の対応要領」及び「緊急事態等における中国四国防衛局の対処マニュアル」の実効性を検証するとともに、大規模災害発生時における当局の対処能力の向上及び局職員の防災意識の高揚を図りました。

また同時に、米軍機の事故を想定した航空機事故総括指揮班を設置し、訓練を実施しました。



中国四国防衛局災害対策本部での訓練状況

「9条交付金」に係るPDCAサイクルの実施に関する説明会開催

平成26年4月24日、中国四国防衛局は広島合同庁舎会議室において、特定防衛施設周辺整備調整交付金に係るPDCAサイクルの実施に関する説明会を開催しました。

特定防衛施設周辺整備調整交付金は、特定防衛施設の設置又は運用に伴う影響の軽減等を図るため、周辺市町村が行う公共用の施設の整備又はその他の生活環境の改善等に寄与する事業に充てるために交付される交付金で、防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律第9条に基づくものであることから、いわゆる「9条交付金」と呼ばれています。

「9条交付金」については、基地周辺対策の推進に関する事業として、昨年11月の行政改革推進会議「秋のレビュー」において取り上げられ、有識者の方々から、交付金の効果の検証や、PDCAサイクル及び地域住民への周知を高める活動の徹底について指摘を受けたところです。



これを踏まえ、防衛省においては、平成26年度より、PDCAサイクル等を適切に実施していくことにより「9条交付金」の効果の向上を図ることとし、今般、その内容について関係自治体の担当者に説明したものです。

説明会においては、岩国市や境港市など7市2町の担当者約40名が参加し、防衛省地方協力局周辺環境整備課の宮川企画官と松並部員から「9条交付金」の効果向上という目的について説明が行われ、説明終了後には参加者との間で活発に質疑応答が行われました。

第23回防衛セミナーを開催 ～今後の我が国の防衛の在り方と自衛隊の活動～

平成26年7月11日、中国四国防衛局は、広島県福山市のまなびの館ローズコム(福山市生涯学習プラザ)において、「今後の我が国の防衛の在り方と自衛隊の活動」をテーマに、第23回防衛セミナーを開催しました。福山市での開催は、今回が初めてでしたが、女子学生、自衛官を夫に持つ主婦やその友達など多くの方が来場され、講演後には活発な質疑応答が行われました。



藤井局長

セミナーでは、藤井高文中国四国防衛局長が主催者として挨拶に立ち、防衛局の役割やセミナー開催の趣旨等について説明を行いました。

福山市は、国内に1市、国外に4都市ある親善都市、友好都市との文化、教育、産業などの交流を行っており、昨年、台風被害を受けたフィリピンのタクロバン市もその1市です。毎年10月20日に開催されているレイテデー(平和の集い)に遺族を中心に参加し、戦没者の慰霊を行っています。



まなびの館ローズコム

福山市中央図書館
福山市生涯学習プラザ
生涯学習センター
図書館
歴史資料室 放送大学サテライトスペース



講演の様子

芹澤課長

第1部では、防衛省防衛政策局防衛政策課 芹澤清課長から「新たな防衛計画の大綱及び中期防衛力整備計画」について、講演しました。

芹澤課長は、国家安全保障戦略・防衛大綱・中期防の位置付け、構成、我が国を取り巻く安全保障環境及び我が国防衛の基本方針等について、初めての方でも理解できるよう、かみ砕いて講演を行いました。

続いて第2部では、昨年11月、フィリピン国際緊急援助統合任務部隊指揮官を務められた海上自衛隊第4護衛隊群司令 佐藤壽紀海将補から「自然災害発生時における自衛隊の活動～フィリピンの台風被害に対する自衛隊の対応」について、講演しました。

佐藤群司令は、写真を用いてフィリピン国際緊急援助統合任務部隊の編成から、護衛艦「いせ」、補給艦「とわだ」及び輸送艦「おおすみ」の出発までの積荷の状況やレイテ島沖からの活動状況、隊員達のタクロバン市など現地における医療・防疫活動、救援物資等の輸送等について、体験に基づいた講演を行いました。



佐藤群司令



質疑する参加者

奈義町町制施行60周年記念式典

平成26年4月8日、陸上自衛隊日本原駐屯地等が所在する岡山県勝田郡奈義町は、町制60周年記念式典を奈義町文化センターで開催し、町内外から約400人が参加して60年の節目を祝いました。花房昭夫町長は式辞で、自衛隊との共存共栄の町として歴史を重ねてきたと述べるとともに、これからも先人が築いた歴史や文化、財産を次世代へとつなぐため、郷土愛と地域力あふれるまちづくりを基軸とし、力強く歩んでゆくと述べられました。また、来賓の平沼赳夫衆議院議員や藤井高文中国四国防衛局長が祝辞を述べました。



花房町長



平沼衆議院議員



参加者全員で国歌斉唱



藤井局長

海自呉地方総監部係船堀地区Fバース起工式



平成26年5月9日、五洋建設・IHIインフラシステムJVは、海自呉地方総監部係船堀地区Fバースの新設浮棧橋建造開始に伴い、JMU(株)呉事業所第2建造ドッグにおいて三木呉地方総監や藤井中国四国防衛局長ら関係者を招き、起工式(安全祈願)を行いました。



鍍入れ式に代わる自動溶接機の入電式

局長感謝状贈呈

～ シーラA. ブライアント大佐に感謝状を贈呈～

平成26年6月3日、在日米陸軍第10地域支援群司令官シーラA. ブライアント大佐に藤井局長から感謝状を贈呈しました。同大佐は、太平洋地域そして世界の安全保障上における日本と米国の二国間の関係の重要性を理解し、揺るぎない信念で中国四国防衛局を支援された。特に、川上弾薬庫の騒音問題に関して運用面での配慮を実施するとともに、第10地域支援群の隷下部隊である弾薬廠を適切に指導され、弾薬庫施設の安定的運用に寄与されました。



局幹部及び米軍関係者と記念撮影(前列左から2番目)

～ 菅坂典子前中国四国防衛施設地方審議会委員に感謝状を贈呈～

平成26年5月29日、菅坂典子 前中国四国防衛施設地方審議会委員に藤井局長から感謝状を贈呈しました。同氏は、長きに亘り広島防衛施設地方審議会委員及び中国四国防衛施設地方審議会委員として在任され、防衛施設に関する業務に深い理解を示され、その在任期間中において、陸上自衛隊徳島駐屯地及び高知駐屯地の開設について、審議会において適切な意見をいただき、防衛施設行政の推進に多大に寄与し、防衛施設の安定的使用に大きく貢献されました。



局幹部と記念撮影(前列左)

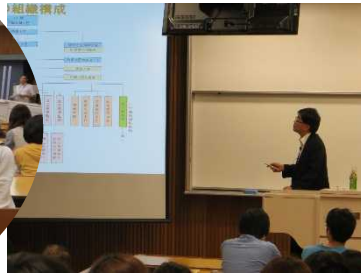
中国四国防衛局長 広島大学で講義

平成26年6月11日、藤井高文中国四国防衛局長が広島大学の学生を対象として、東広島市内の東広島キャンパス及び広島市内の東千田キャンパスにおいて講義を行いました。

講義の内容は、防衛省、地方防衛局の組織、我が国の安全保障環境、防衛大綱や岩国飛行場に係る米軍再編など、通常の講義では聴くことのできない防衛政策に関するものであり、学生達は熱心に聴講していました。



東広島キャンパスでの講義



東千田キャンパスでの講義

人事異動

6月の人事異動により新しく中国四国防衛局の幹部ポストに就いた職員を紹介します。

総務部長



越智 文隆

6月27日付で北海道防衛局から着任しました越智です。

出身は管内の愛媛県で、伊予水軍の末裔として、なじみのある瀬戸内海の島々の美しい風景は、なつかしく心が和みます。

当局管内には、米軍、自衛隊施設が多数あり、大きい事業も進んでいます。今後も地域の皆様と防衛省が連携して我が国の安全保障に寄与できるよう力を尽くして取り組んで参りますので、よろしくお願いいたします。

防衛補佐官



1等海佐 金山 哲治

6月25日付で、中国四国防衛局防衛補佐官を拝命しました金山です。

当局及び中国四国地方での勤務は初めてですが、「我が国の平和と独立を守り、国の安全を保つ防衛省・自衛隊の一翼たる当局の仕事に惚れ、自然に溢れ歴史豊かな中国四国の土地に惚れ、そしてそこに住む人に惚れる。」の3惚れをモットーに全力で取り組んで参ります。

今後ともご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。